

琉球大学学術リポジトリ

1972年の沖縄返還時の有事の際の核持ち込みに関する「密約」に係る調査関連文書No.2

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 核持ち込みに問題, ジョンソン次官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43897

86

大石
吉和
10月17日

米側
台三

ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ

愛知大臣マヤ-大使会議 (沖縄返還問題)

8. 8. 28
米比一長

昨28日午後4時30分より6時10分まで両者大臣接見室においで行われた会議概要次のとおり。(交渉)

マヤ-大使、ウヰルニ通知を、当地大使局長、赤谷参事、比米比-得長同席)

1. 交渉の原則的了解

(1) 大臣の事務レベル交渉の進展に願わ、右交渉は現行の安保条約の関連取極の体系に適用され、その枠内での解決を、コニコニという形式で、総理訪米の際に結着を下さるとの原則的

了解の下にせぬ、か2113と確認(在日発言)

(2) 大使より、米側とはコニコニがAの補足的な保証 (SUPPLEMENTAL ASSURANCES) の文に

この合意は沖繩返還着手工程出来ると望んで113. 右方、議会の対具体的

的に如何なる手続をとりかは未定分派、と述べ

(3) 大臣は、2-3の点にこの合意を以て113に

二点に含め、コニコニで解決し得ない部分は、総理の時国会、大蔵省の対議会説明で

補充するともあり得、か、望ましいと理解し、113と発言(在日発言) 大使は以上のほか秘密の

(は当知照42113と見22115) 了解が必須とあるかも知れぬと述べ、二点に對し大臣は秘密の了解は現在も二点に後

124点113とを明らかにした。

2. 重要問題に関する大臣所見

大臣所見 重要問題として(1)の戦時作戦行動に関する所見(2)の朝鮮半島戦争が過渡期に終わった場合の所見(3)核問題

以下の如く述べたと共に、別の観点より韓国・国府に對する日本の工作の可能性の問題に言及し、目下総理

にも上申に検討中であるが、未だ成案はないと述べた。

(1) 戦時作戦行動に関する所見

(イ) 朝鮮半島

(a) 大臣所見(1)日韓不協定と総理 各自の公報におきまして、朝鮮半島に武力戦争が起るとは日本の安全に影響する

朝鮮半島の静穏の保持は日本にとり大問題であると述べたこと

想起に(2)今回の日韓関係公談で、崔外務部長官が

朴正煥公使と米側が米韓条約の締結を望むこと

を二重の対韓協定として述べたと述べた旨を内閣

の上二つは充分留意を要せしむると、日韓共同公報
二つで一言沖繩に言及せしむると、(3) 昨27日米側と手交

の共同声明等にわが国の朝鮮半島に對する関心と苦心が
表れてゐると、但し主権國として留保を以てする前協定の

権限を可及的に GIVE AWAY するつもりで明記し得たこと
を述べた上、日本側の支持は充分理解を以てしむると要望した。

(イ) 次いで大使の答へに崔外務部長官は、
過渡後の沖繩米軍の対韓援助能力低下云々の点

に、(1) 米韓条約の締結を望むこと、(2) 米韓条約の締結を望むこと、
沖繩が台座となり過渡後どうなるか、日本も考慮を以てしむ

こと(2)日韓間に条約締結は存在するが、その締結を望むこと、
兩國の領土信託(信託)の締結を望むこと、(3) 締結を望むこと、

工夫を以てしむると要望(右二つを明記した)

(c) 大使より、無責任かつ危険な北韓の脅威下韓国人が

3. 実質問題に關する大使所見

A. 大臣の明快な所見表明に謝(在上) 問題の双方の實地上の必要なると政治上の問題も如何に

調整するにあり、自国とこれに關係する他国の對等、台、中、韓のコミットメントの遂行能力を審う(IMPACT)

ことと欲(これ)にことと確信(在)に。他方日本側から公開の文書で本意に關して正確な説明を云ふべき

に問題があることと理解するが、それと本意とに一致するもの本意を言う気は毛頭なく本意の枠内で解決したいと述べた後、以下の如く述べた。

(1) 韓国

朝鮮半島の38度線は日韓の防衛線である。

韓国に對する文書は未だ曖昧であり、國務省とこれに明快な文書でないと、60年1-10-は存続せしめたい意向で

あり

(2) 台湾

朝鮮半島の38度線は日韓の防衛線である。

(1) 大臣御座稿の如く、半島に對して中米戦争を欲せず、国際社会への出入り及び通商貿易の樹立を望んでいられること

台湾のコミットメントは、台湾の起す事件の尻尾に半島が土着するに在り、極めて慎重に、先づの国際中

の中央砲撃を洗う事件の際にも半島に對して注意を示す。

(2) コミットメントを以て、中米の利権争いとは異なる

あるが、その反面、半島の台湾防衛能力が欠損せざることを以て、中米の台湾攻撃を阻害

するに在り、(中米の台湾攻撃を阻害するに在り、中米の台湾攻撃を阻害するに在り、中米の台湾攻撃を阻害するに在り)

了らる結果となり、日本の国益上もよきことと見做す。

これにコミットメント一方は宣言以外の非公開了解で(中米側の)挑発に對して武力攻撃の明らかな場合、半島

の手は縛らる、ことの確認を検討中である。

(3) ワイエトナム

1972年米の締結を希望してはいるが通(加)が不明の

現在、米国内で「フロン政府は進んで在越米軍支援能力を低下せよ」といふ、この政治的攻めを可視

にしたがって二つの論外で、^{同2}「二つは一つの空言のふりか非公開了解が米能力を低下せよ」といふのは、大敵役が「撤退の時期が早ければいいから」といふ(世)

この意、議会に言うつもり(有)は有らな

(4) 概論

自分と米に新に申上りる所は在(た)に、中絶の概

米は抑止能力・戦力の双方を低下せよと、米撤去のついで、何し決定文をいふことと再々申上りた

B. 以上に対し(大屋) 李正に言つた韓国、台湾に7月26日意見は大角合つた事があり、李正は「是れは在」と思つた

述心左後、ワイエトナムに7月26日如く話した

(1) 大屋のワイエトナムに7月26日通電時の締結に際して

望むとの意向の表明に止めろ(と)いふ(CEASE FIRE 26日)

行かぬか、私利に在るか、米国の世界政策にとつても72年米の締結にせよとの意向表明を「世界的な(0)米会社」

舞台(在)とワイエトナムと直接関係なくして、行なうには有意味でないか、締結した場合どうするかと書いた

締結の意向を報告し、米に示さう、と述べた

二九日、大使、11月26日は、米国内世論の反(米)にCEASE FIRE 26日(米)と米内、大屋が27日(米)に

時、米の諸友邦の支持躊躇するに、米国内、米のGIVE UP 7日(米)と米内、フロン

大敵以下米国は、何年かいてても有る締結の実現に努力する(米)同時、11月26日(米)以外で

先般の2万5000人撤去の如く、行はさる(米)に7月26日

合理的な427日(米)と米内、米(米)の26日(米)と付言した

(2) 大臣より 抽象的 政治論 なるが、日本の内政上 計議
問題 加 日中の要求 日敵 解決の 軌道に つたは 113

こと 加 日中の 要求 日敵 解決の 軌道に つたは 113
自民党 予 予 以上の 大 贈 手 換 力 二 七 五 確 信 力 二 七

日 本 内 政 上 計 議 問 題 の 友 好 的 解 決 を 可 能 に 打 撃 と 為 っ
て 有 る と 113 二 七 五 一 大 成 果 二 有 る と 述 べ た。

大 使 二 日 本 内 政 上 計 議 問 題 の 友 好 的 有 政 情 況
状 況 (FRIENDLY GOVERNMENTAL SITUATION) の 維 持 を

希 望 二 日 本 内 政 上 計 議 問 題 の 友 好 的 有 政 情 況
状 況 (FRIENDLY GOVERNMENTAL SITUATION) の 維 持 を

4. その他

(1) 今後の進め方

大臣より 1967年の 総理訪米 時 には ^{27年2} 二 七 五 一 作 成
作 業 は 一 次 二 七 五 一 除 け 二 七 五 一 上 二 七 五 一 比 二 七 五 一

今日 日 本 内 政 上 計 議 問 題 の 友 好 的 有 政 情 況
状 況 (FRIENDLY GOVERNMENTAL SITUATION) の 維 持 を

希 望 二 日 本 内 政 上 計 議 問 題 の 友 好 的 有 政 情 況
状 況 (FRIENDLY GOVERNMENTAL SITUATION) の 維 持 を

(2) 日米貿易問題 (別途記録)

大臣より 日米貿易問題 加 日中の要求 日敵 解決の 軌道に つたは 113

日 本 内 政 上 計 議 問 題 の 友 好 的 有 政 情 況
状 況 (FRIENDLY GOVERNMENTAL SITUATION) の 維 持 を

日 本 内 政 上 計 議 問 題 の 友 好 的 有 政 情 況
状 況 (FRIENDLY GOVERNMENTAL SITUATION) の 維 持 を

日 本 内 政 上 計 議 問 題 の 友 好 的 有 政 情 況
状 況 (FRIENDLY GOVERNMENTAL SITUATION) の 維 持 を

日 本 内 政 上 計 議 問 題 の 友 好 的 有 政 情 況
状 況 (FRIENDLY GOVERNMENTAL SITUATION) の 維 持 を

(3) 総理訪米時期 (別途記録)

(4) フォリス対策

双方協力の結果、^{（ロッキード会協）}「大規模に備えられ

の進展小の正検討(注。現在此の主要作業者
ゴニゴの骨子の作成が、<sup>（防衛省作戦行動
は）</sup>

セグメントの7424 伏せ(注) 本日は 日有と合
極東の安全保時 対して 米国のコミットメントの観念

より 通達後の基地使用に 対して 本大
より 概論 疑わし 目的 立場を 表明し、^{（信託に する 概論 止り）}

米国の 依然 根拠に (CREDENCE NUCLEAR DETERRENT)

を かく 伏せあり と 考へ たり 旨 明か せ した、 とい

説明を 行 あり とい 合意

(5) 右方 大規模 = フリ - 大規模 取込の 外遊 に 関 する

資料 互 手 交 し、 昨日 空 港 へ 派 遣 され 不 二 不 一

上 役 幹 吏 と 信 託 あり、 フリ - 外交 の 協 力 形 勢 整 備 と 見 込 け ら せ 付 け